

秋田活性化中学生選手権

秋田南高中等部

秋大付が全県へ

県央大会

第5回秋田活性化中学生選手権県央大会（秋田魁新報社主催）が12日、秋田市八橋の県Jビルで開かれ、8校の生徒37人が地元企業を訪問、取材して考えた地域活性化策を発表した。優秀校に秋田大付属（秋田市）と秋田南高中等部（同）が選ばれ、11月9日に秋田市山王のさきがけホールで開かれる全県大会への出場権を得た。

優秀校2校のほか、城南、岩見三内（以上秋田市）、天王南（湯上市）、由利、本荘東（以上由利本荘市）、男鹿東（男鹿市）が出場。生徒が

訪問した企業の経営者ら10人が審査員を務めた。秋田大付属は秋田キャッスルホテル（秋田市）を取材。インバウンド（訪日客）に秋田弁を知ってもらう取り組みを提案した。コースターに印刷したQRコードを読み取る

と、秋田弁の音声や英語による翻訳が確認できる仕組み。方言による会話の独特な雰囲気や伝えたいと考えた。若者のホテル利用を促進するため、和服の着付けや周辺観光、個室での夕食を楽しんでもらう宿泊プランや、若者とインバウンド向けの観光地図を作



インバウンドに秋田弁を知ってもらう仕組みづくりなどを提案した秋田大付属の5人

成するアイデアも示した。田口宗暁さん（2年）は「コースターの提案では会場にQRコードを読み取った人にもQRコードを読み取って体験してもらったので良

秋田南高中等部は、秋田住



若者が楽しめる複合施設の整備、運営などを提案した秋田南高中等部の4人

さが伝わったと思う。全県大会までにプレゼンを磨き上げて1位を目指したい」と話して立ししやすい職場環境づくりに

（石川彩乃）

取り組み、2022年度の「秋田市元気な子どものまちづくり企業」で最優秀賞を受賞していることに触れ、表彰企業による意見交換イベントの開催を提案。さらに、若者を呼び込む取り組みとして他業種と連携し、リモートワークスペースや飲食店、運動場を併設した複合施設を整備、運営するといったアイデアを発表した。

筒井煌さん（2年）は「他の企業とのつながりを意識したアイデアを発表できた。プレゼンではあたふたしてしま

った部分もあったので、全県大会でスムーズにできるよう頑張りたい」と語った。